

会議記録（要点筆記）			
委員会名		秦野市子ども・子育て会議(令和4年度第1回)	
日時	令和4年11月17日(木)	場所	秦野市役所西庁舎3階 大会議室
出席者	<p>[委員氏名] [所属団体等]</p> <p>小林 正稔 : 神奈川県立保健福祉大学教授(会長)</p> <p>小林 徳博 : 元・二宮町教育委員、元・小学校長(副会長)</p> <p>原 あづさ : 私立幼稚園長</p> <p>小島 栄希 : 秦野市私立保育園園長会</p> <p>松原 沙織 : 東海大学政治経済学部教授</p> <p>新國 咲耶 : 市民委員</p> <p>藤田 直正 : 秦野市学童保育連絡協議会</p> <p>山口 有美子 : 神奈川県平塚児童相談所 子ども相談課長</p>		
欠席者	<p>[委員氏名] [所属団体等]</p> <p>諏訪 慶 : 秦野市PTA連絡協議会</p> <p>内藤 剛彦 : 秦野伊勢原医師会</p> <p>大山 しおり : 市民委員</p> <p>串田 浩 : 秦野商工会議所</p> <p>小泉 和代 : 秦野市社会福祉協議会</p>		
[事務局]		[庶務担当(こども健康部子育て総務課)]	
こども健康部	こども健康部長 子育て総務課長 保育こども園課長 保育こども園課課長代理 こども育成課長	課長代理 主査	
教育部	教育総務課長		
議事内容	<p>1 開 会</p> <p>2 委員紹介・事務局紹介</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議 事</p> <p>(1) 「秦野市子ども・子育て支援事業計画」の令和3年度実施状況及び総括について</p> <p>(2) 「第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて</p> <p>(3) その他</p>		

	5 閉 会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・【資料1】令和3年度「秦野市子ども・子育て支援事業計画」に係る具体的支援策等実施状況報告書 ・【資料2-1】第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて（概要） ・【資料2-2】「秦野市子ども・子育て支援事業計画」に係る中間見直し予定項目一覧 ・【資料2-3】教育・保育の量の確保 見込量・確保量の見直し ・【資料2-4】教育・保育の「量の見込み」の見直しについて ・【資料2-5】放課後児童健全育成事業（放課後児童ホーム）見込量の見直し

[1 開 会]

○事務局

（13名の委員のうち8名の出席があったため、秦野市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを報告）

[2 新任委員紹介・事務局紹介]

[3 会長あいさつ]

[4 議 事]

(1) 「秦野市子ども・子育て支援事業計画」の令和3年度実施状況及び総括について

○事務局

【資料1】に基づいて説明

○委員

妊産婦新生児訪問指導事業について、妊産婦訪問を688回実施したとあるが、もともと予定件数は何件でどれくらい達成したのかわからない。そのように、実施状況として示されている件数や内容がどの程度目標に対して達成できたのか、どの程度達成したら自己評価がどの評価になるのか、基準がわからない事業が複数ある。また、事業によっても判断基準にばらつきがあるように思う。

○事務局

妊産婦については、令和3年度の妊娠届が767件であり、大部分を達成できているものである。全体的な数値の示し方については、おっしゃる通り客観的な評価がわかりづらいものが多くあり、記載方法について見直しをしていく。

○委員

何パーセント達成したかなどで示したほうがわかりやすいのではないかと。

○事務局

客観的な数字で評価できるもの、そうではなく質の部分で評価したものなどを明確に示せるよう、記載の仕方の統一を目指していく。

○委員

「妊産婦新生児訪問指導事業」の件数と「乳幼児の健康相談」の妊産婦や新生児、未熟児の実施件数が一致しているのはなぜか。

○事務局

「乳幼児の健康相談」は、妊産婦新生児訪問事業で訪問した際に合わせて実施しているため、件数が同一となっている。

○会長

「目標を達成したが、課題があるためBとした」といった評価が目立つが、やるべきことをきちんと実施しているのであればAとしてもよいのではないか。働いている者のモチベーションにつながるような評価にしてもらいたい。

○委員

「地域における育児相談事業」は、新型感染症拡大の影響でほとんど中止になったとされているが自己評価はAとなっており、一方で「目指せイクメン講座」は事業の休止があったためBとなっている。こうした差が生じているのはなぜか。

○事務局

前者は、新型感染症の影響下で例年どおりの実施はできなかったものの、その中で少数でも実施したものは予定どおり行うことができた判断したもの。後者は、「参加したい人が参加できない」点について足りない部分があったためBとしている。先ほども指摘があったとおり各担当課での判断にばらつきがあるため、自己評価の基準については今後調整を図る。

○会長

セミナー等の事業実施については、回数の達成もあるのだろうが、ただ回数をこなすだけではなく、内容を形骸化させず常に充実を図ってもらいたい。

○委員

今の時代はSNSなど青少年に影響を及ぼす新しい環境が生じている。基本目標2「青少年非行防止」の各事業にあるような啓発パンフレットの配布だけではなく、例えば基本目標3「思春期の保健対策の充実」という枠組の中で、もっと啓蒙していくような事業の実施を検討してもらいたい。

○委員

スクールカウンセラーについては自分の周りでも利用し助けられた家庭がある。今後の取り組みとして、より活用していけるようアピールしてもらいたいと考えているが、現在の状況はどのようなか。

○事務局

学校の授業を受けられない、教室に入りたくても入れないような児童がいる。そんな子どもたちに学校の先生以外の存在が寄り添う形で支援を行っている。

○会長

スクールカウンセラーには、地域や生活環境を理解し、その学区の特性を理解したうえで子どもたちに対面してほしい。

○委員

スクールソーシャルワーカーは、自己評価を派遣回数に要望が高いのでBとしているが、ニーズに応えられていないからBということなのか。派遣回数はもっと増やしていきたいと考えているのか。

○事務局

回数を増やしていきたいと考えているが、現状専門職の方が県からの派遣のため、他自治体との兼ね合いでなかなか回数が増やせない状況がある。

○会長

学校に配置するのではなく、派遣方式にするなど、効率的に相談を受けられる方式を検討することもしてはどうか。

○委員

「利用者支援事業」における保育コンシェルジュは、どのような方が務めているのか。

○事務局

元公立こども園の園長が務めている。経験がある人間が当たることで、ただ保育園を紹介するというのではなく、各家庭の状況や希望に合わせて課題解決が図れるよう相談に応じている。

○委員

社会福祉士など、相談業務の専門性を持った方が務めたほうがよいと考えるが、そういった研修を実施したり、要件を設けたり等は行うのか。

○事務局

地域の子育て支援全般の相談に乗る役割を担っており、相談事務の専門性というよりも、市内で長年勤務してきて地域の状況をよく知るものに就いてもらっている形である。

また、ぽけっと21のスタッフ等他の地域子育て支援事業の担当者と月に一回情報交換する場を設けており、連携にも努めている。

○委員

「保育士の就労支援」における就労促進給付金だが、平塚市の方が給付金が高い状況にあり、そちらに保育士が流れているのではないかと懸念している。

○事務局

近隣自治体とともに取組について研究しているが、おっしゃるような影響は確認されていない。

○委員

就労支援の自己評価について「一定の成果があった」としているが、どのような実績をもって成果があったとしているのか。

○事務局

給付の条件として3年間市内の園で勤務することを求めているが、受給者を対象にアンケートを実施した結果、継続勤務することに対して前向きな回答が得られたため、意欲向上や定員割れの防止に一定の成果があったと判断している。

○会長

私立園では職員確保に苦勞している現状は依然としてあるので、今のような説明でもって成果と判断していることを記載するなど、書き方を工夫してもらいたい。

○委員

「母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業」について、十分な効果があったため自己評価をAとしているが、どう十分だったのかが読み取れない。

○事務局

ひとり親家庭は約1,000世帯あり、すでに就労している方もいるので、そのうち就労支援を必要としている方の正確な数の把握は難しい。令和3年度は本事業に6名から申込みがあり、介護福祉士、医療事務、社会保険労務士の資格取得に役立てている。記載の仕方は次回以降改めていきたい。

○委員

「統合保育・教育」について、保育園での加配対応に努めていただいたおかげで小学校入学後に支援級ではなく一般クラスに入れたという声を聞いている。しかし、小学校で学年が上がるにつれて一般学級についていけなくなってしまうケースも耳にするので、小学校でも幼保のきめ細かい支援が継続されるように、より連携に取り組んでもらいたい。

○委員

「巡回相談事業」について、学年が違って複数の子どもを見なくてはいけないときに、一人に対する時間が少なくなってしまうから、複数回になっても時間のゆとりをもって見てほしいという声があった。

○会長

「教育・保育の質の向上」で、おおね幼稚園の廃園からひろはたこども園への一体化を進めたとあるが、大根地区内での人数の推移はどうだったのか。

○事務局

ひろはたこども園を希望する家庭はこども園へ、鶴巻地区の鶴巻幼稚園に近い家庭等はそちらに移行した。

○委員

同項目において、乳幼児教育保育支援センターの具体的な検討をしたとあるが、どの

ような検討をしたのか。

○事務局

すでに市で乳幼児やその家庭を対象とした相談業務や支援体制がいろいろ整備されている中で、どうすみ分けをしていくかをまず考えた。その結果、これまでは公立同士の結びつきは強かったが、私立園も一体となって市全体で園小中一貫教育をどう進めていくかという点について、並行して「園小接続カリキュラム」の検討も行っているので、連動して考えていきたい。そのために、どのような人員が必要で、どの部署で担っていくかの検討を行った。

○委員

公私の枠を外して取り組んでいくということが大きなテーマとなっているので、私立園の意見をしっかり聞きながら進めてほしい。

○委員

「ショートステイ事業」について、課題整理や調整を行ったとあるが、事業実施に至らないのはどのような課題があるのか。

○事務局

本事業に対応可能な施設が市内にないため、令和3年度は秦野市からもっとも近い対応可能施設である二宮町の児童養護施設に、事業実施に向けて話を聞いた。その結果、県内他自治体の実施事例では、複数日に渡り子どもを預かるときは、期間中の学校への登下校の送迎も施設で実施しているが、二宮町の施設では送迎の対応は難しいとのことだった。その他の部分については必要経費の見積を依頼するなど話を進めているが、この課題がクリアされないと事業実施は難しく、何か代替となる手段がないかを含め検討している。

○会長

送迎は、施設側にとっては安全面も考慮しなければならず課題である。親が承諾すれば通学までに対応しないという選択肢もあるので、柔軟に検討してほしい。二宮の施設は実績も豊富であり、活用してもらいたいので、継続して話し合いを重ねてもらいたい。

○委員

この子育て短期支援事業については、今後実施できる見込みがあるのかどうか。また、事業実施に至っていないのに評価はCで良いのか。

○事務局

実施に向けて法人と話を進めているが、新型コロナウイルスの影響もあり法人側が動けずに研究や検討が進まなかった部分もあるため、Cとしている。なお現状では、法人からは令和5年度からの開始は難しいが、令和6年度からであれば準備できる可能性があるとの見込みを示されたため、引き続き事業実施に向けて準備を進めていく。

○会長

施設側と市とで予算の検討方法について、すれ違っている部分もあるようなので、すり合わせをしてもらいたい。

○委員

「放課後児童健全育成事業（放課後児童ホーム）」について、「児童ホームと子ども教室の一体的運営」を施行実施した結果、利用実績や費用対効果等の面から事業を終了したとしているが、詳しく教えてもらいたい。

○事務局

利用実績については、登録者はそれなりにいるが、学年が上がるにつれて出席率が下がり、高学年になるとほとんど来なくなるという結果となり、居場所としてのニーズがないと判断した。

利用料については、アンケートを実施したところ、放課後子ども教室について利用料を1000円徴収すると半数が利用しないという結果になった。

また、児童ホームを運営するには一日1400円の経費がかかるが、これを放課後子ども教室に合わせると、経費は一日4300円となる。この上げ幅で全市13校に実施したとすると年間1億1700万円かかるという試算になってしまい、費用対効果を考えると難しい。

その代わりに、利用者アンケートを踏まえ、現状4年生まで実施している放課後児童ホームを、6年生まで拡大することを検討している。令和5年に1校試行実施し、課題を洗い出したうえで6年度から全市で実施していく方向で検討したい。

○委員

上小学校では放課後子ども教室を地域の方々の協力を得て運営しているなど好事例もある。放課後の子どもの居場所づくりの重要性が増している時流の中で、取組を終了するのは逆行していないか。

○事務局

もちろん子どもの居場所づくりは考えていかなければならない。ただ、現状では放課後子ども教室という形は、今の子どもたちの放課後の過ごし方と合っていない面が多いと感じている。

子どもを集めるのではなく、子どもの集まる場所に地域の方が関われないか等、別の見守りの方向性を模索していくつもりである。

○会長

教育委員会でも地域の方との連携を進めているはずなので、そちらとも協力し合っ
てよりよい形を考えてほしい。

(2) その他

○事務局

もうひとつの議題（第2期子ども・子育て支援事業計画の中間見直し）について意見

をいただきかったが、ひとつめの議題にたくさんのご意見をいただき時間を要してしまっただけ、本日はここまでとし、再度日程を調整して、第2回を開催したい。

[5 閉 会]